



# 治療道具作成④ 訓練用道具

**OT学科 2年生が作成した作品です！！**

OT推進チーム 研究班

平成リハビリテーション専門学校 細川雄平

## 治療道具

商品名:	何ができるかな？わくわく！紐でお絵描き！
グループA:	
項目	内容
対象	知的・発達・高次脳機能障害や麻痺を伴う児童～高齢者
材料	PPシート、園芸用紐、セロハンテープ、丸シール
費用	220円
作成のポイント	裏側に通した紐も輪郭の線として見えるように半透明のシートを使用したこと。シートの角で怪我をしない様に角を落として丸くしたこと。スタート(紐の通し始め)がわかるように、赤いシールで目立つようにしたこと。手指からの触覚刺激が入りやすいように、太く硬い園芸用の紐を使用したこと。
使用方法	赤いシールの貼ってある穴から隣の穴へ順に紐を表から裏へ、裏から表へと交互に通していくと、あら不思議！何かが浮かび上がってきます。ただ通すだけでなく、出てきた形が何かを当てたりもできます。
良かった点	メンバー全員で分担し協力して作成できたこと。作成途中に、もっとこうしたらいいという意見が出て、それに対して臨機応変に工夫を加えて作成できたこと。
悪かった点	計画性が足りず、時間に追われ焦ってしまい作業が雑になってしまったこと。シートの角や穴の周囲などにヤスリ掛けして、滑らかにできたら尚良かった。

写真(使用前)





写真(使用時)



治療道具 色合わせキャップ		写真(使用前)
商品名:		
グループB:		
項目 対象	内容 精神障害、高次脳機能障害、身体障害 知的障害	
材料	書類ケース、丸シール(赤、青、黄、緑、白)、ペットボトル(口9個、蓋9~10個)、見本シート5枚	
費用	333円	
作成のポイント	色(シール)に注目できるように、キャップの色とシールの色がかぶらないように気を付けました。白色は見えにくいので、シール表面に顔の絵をかいて、注視しやすいように工夫しました。 グルーガンの使用には、やけどに注意して取り扱いました。見た目がきれいになるように、グルーガンで接着後、周りをきれいにふき取りました。	
使用方法	脳トレーニングや、上肢機能のトレーニングに用いることができます。 ①脳トレーニング:色合わせ課題。見本シートを見て、同じ場所に同じ色のキャップをはめるトレーニングです。 ②上肢機能トレーニング:キャップ開閉課題。キャップの開閉のトレーニング(握力、ピンチ力、調整力の向上)ができます。 ①、②を組み合わせ、総合的なトレーニングとしても使える優れたものです。	写真(使用時)
良かった点	低価格で簡単に作ることができ、収納力にも優れています。使用対象者の幅も広く、段階付けしやすい(量、難易度)トレーニング器具です。コンパクトで持ち運びもできるので、場所を選ばずトレーニングに使用することができます。 最後までグループ全員で協力して取り組むことができました。	 
悪かった点	書類ケースの厚みとペットボトルの口の高さを考えずに取り付けてしまい、書類ケースを閉じようとする、閉まらないというハプニングがありました。 グルーガンで取り付けした全てのペットボトルの口をもう一度外し、高さを調節して取り付け直しをすることになってしまいました。 キャップの蓋の色を白に統一できればよかったです。キャップに色がついていると、注目する色が定まりにくいので、注意機能が低下している患者さんには高度な課題となってしまいました。	



治療道具		写真(使用前)
商品名:	バクバク玉入れ	
グループC:		
項目 対象	内容 高次脳機能障害、片麻痺、認知症	
材料	テープ、500mlペットボトル4本、2ℓペットボトル2本、 ピンポン玉4つ、ポンポンボール10個、スーパーボール6個 写真立て1個、ペットボトルキャップ6個	
費用	443円	写真(使用時)
作成のポイント	動物のイラストを使用して、楽しく作業できるようにした。難易度を上げた作業も行えるように、ペットボトルの上部も使用してオプションパーツも製作した。	
使用方法	①トレイからボールを取り出す ②ボールを把持した状態で容器まで運ぶ ③ボールを離し、容器の中に入れる	
良かった点	オプションパーツを作ることで巧緻機能の訓練も行うことができる点。 デザインがポップで対象者を選ばない点。	
悪かった点	ペットボトルの高さを考えながら切りましたが、使用すると手では取り出しにくいペットボトルの高さがあることがわかりました。それは、お箸やトングで、取り出していく治療に利用できるとも考えました。そうなれば、ピンポン玉は大変取り出しにくいです。	

治療道具		写真(使用前)
商品名:	食事動作訓練セット	
グループD:		
項目	内容	
対象	利き手上肢の機能不全の方、利き手交換を行った方	
材料	紙皿2枚、箸、スプーン、紙粘土、スポンジ、絵の具	
費用	444円	
作成のポイント	<p>色や形を複数用意することで、ただ手指機能改善・箸操作・スプーン操作を練習するだけでなく特定の色や形を指定することで選択や複雑な指示の理解など高次脳機能面へのはたらきかけも可能。</p> <p>皿の場所を動かすことによりリーチ動作の機能回復にも働きかけられる。この一皿で複数の機能向上訓練が行えます。</p>	
使用方法	<p>1つの紙皿に※粘土、スポンジ(※今後対象物と表記)を乗せスプーンですくうまたは箸で対象物を把持し、もう1枚の紙皿へ移す動作を繰り返す。</p> <p>皿の場所を奥へ動かすと、把持動作だけでなくリーチ動作の機能回復も図れる。</p>	
良かった点	<p>複数の形と色を用意したことで手指の訓練だけでなく高次脳機能面への訓練も可能。また製作が簡単なので、治療道具を作るところから対象者に参加して貰え、自身での自主学习や他者に使って貰える楽しみがある。</p>	<p>写真(使用中)</p> 
悪かった点	<p>アイデアがありきたりすぎる。粘土のデザインを考えていなかったため、デザインを考えるとところから授業で進めたため、作成に時間がかかった。</p>	